

いそまる

磯丸のつくった歌

たくさんの歌を作った磯丸も「まじない歌」ばかりを作っていたのではありません。磯丸の詠んだ歌には、伊良湖を詠んだ歌や旅先でのあいさつ歌、言葉遊びに近く、ゲーム的な感覚で詠んだ遊戯歌（折込歌）なども多くあります。

【伊良湖を詠んだ歌】

夏ころも きてもみよかし いらご崎 すずしきなみの よるの月かげ

意味

夏が来て、すずしい着物に着替える季節になりました。そんな着物を着て、ふらりと夏の伊良湖崎に来てください。月夜の砂浜に聞こえる波の音が涼しくて、何ともいえない気分になりますよ。

【あいさつ歌】

はずかしな いらごが崎の あまのかる いそのひじきを ささげものとは

意味

私が暮らす伊良湖は田舎で、都へおみやげにするような物は何一つありませんが、春の磯で海女が取った磯の香りのするひじきを持ってきました。お恥ずかしいかぎりですが、私の精一杯の気持ちをお受け取りください。

【遊戯歌(折込歌)】

ひとよとへ のき端のつゆに てりそひて まつのこのまの つきのさやけさ

意味

まっくらな夜をさわやかな光を照らして見事な夜景を浮き上がらせているのは月の光です。でも、月はそのことを自慢もせず、軒端の露に光をそえる脇役に徹しています。自分のことを自慢せず、松の枝の間から控えめに顔を出している月の、何とさわやかなことでしょう。

この歌は、百々神社にあった日の出松という伝説の神木のことを、「ひのてまつ」の五文字を歌の頭に詠み込んで作ったものです。

これらの歌は、伊良湖岬にある磯丸園地や「いのりの磯道」、六連町にある百々神社に歌碑として建てられています。

皆さんも三十一文字の歌を作ってみよう ～願いごと・夢・希望など～